

保健体育（中学校2年） 「ゴール方向に守備者のいない位置でシュートを打とう」

1. 授業の実況 授業校 千葉市立[]中学校 指導者 []

(1) 単元名 球技「バスケットボール」

(2) 本時の目標

- ・ゴール方向に守備者がいない位置でシュートすることができる。(知識・技能)
- ・ボールを持たない動きについて課題を見つけ、他者に伝えている。(思考力、判断力、表現力等)

(3) 本時の展開（7時間目／12時間）

時配	学習内容と活動 (◎：主な活動内容 ○：具体的な生徒の動き)	指導や支援の手立て (○：支援や指導 ◆：評価)
導入 10分	◎整列・挨拶・健康観察・準備運動 ◎ねらいの確認をする。	○出席と健康状態を確認する。 ○本時の活動内容とねらいを確認させる。
	ねらい：ゴール方向に守備者のいないスペースでシュートできるよう、課題を伝え合おう。	
展開 30分	◎ミーティングでの話し合いの留意事項を確認する。 ◎ゴール方向に守備者のいない位置からシュートしている手本映像を視聴する。 ○ギガタブでドライブにあるデータを、テレビで視聴する。	○ミーティングでは、ねらいに即した、ボールを持っていない人の動きにおけるよいところを伝えつつ、課題も伝えあえるようにさせる。 ○ドライブ上のデータを、ギガタブからテレビにつながる手本の映像を見せる。
	◎3対2 ・6班のうち4班が活動、2班は動画の分析 ・OF3人 DF2人 撮影者1人 ・1セット4分 【ミーティング（待機時）】 ○ギガタブで撮影した映像をもとに、守備者のいないスペースでシュートができるよう、攻撃者の動きのよさや課題を考え、伝え合う。 【予想される生徒の行動】 ①攻撃者の距離が近く、空間ができていない ②攻撃者が空間のない場所でパスを受けようとしている ③シュートの位置が遠い	○2名の守備者はビブスを着用させる。 ○空間と守備者に注目させる声かけをする。 ○ゴール方向に守備者がいない位置でシュートできた生徒には、具体的に出来栄をほめ、学習意欲を高めさせる。 ◆ゴール方向に守備者がいない位置でシュートすることができる【知識・技能】（観察） ①攻撃者同士の距離が近い生徒に「守備者の位置を確認するには攻撃者は広がった方がいいか」と発問する。 ②攻撃者に「守備者はどこにいて、どこの空間があくか」と発問する。 ③シュートの位置が遠く決まりにくい生徒に、「ドリブルとパスを使って相手を引きつけて守備者を動かそう」とコーチングする。 ◆ボールを持たない時の動きについて課題を発見している。【思考力、判断力、表現力等】（学習カード・観察）
まとめ 10分	○学習カードの記入 ○振り返りと次時の目標の確認 ○整列・挨拶・健康観察・整理運動	○巡視し、個人の振り返りを確認する。 ○本日の振り返りを班長に発表してもらおう。 ○本時の反省を、次時の授業の確認をする。

2. 成果と課題

(1) ギガタブレットの使用で生徒たちがより課題を明確に理解でき、課題解決に向け、アドバイス活動が活発になり思考力・判断力・表現力の向上につながった。

(2) 成果と相対してギガタブレットの使用で生徒たちの運動量の確保が課題に挙げられた。活動を抑制させない形でのタブレット使用を検討しなければならない。